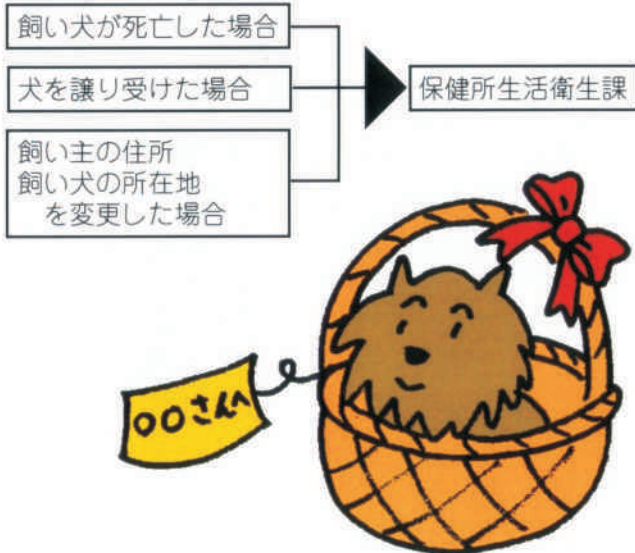


②犬の死亡・飼養場所や飼い主が変わったとき

1. 次の場合、保健所に届け出が必要です。



2. 愛犬と海外に長期滞在するときや、愛犬とともに帰国したときはその旨を保健所に連絡してください。



犬の主な病気

●犬ジステンパー

子犬の時期にかかりやすい死亡率の高いウイルス性の伝染病で消化器、呼吸器、神経などが侵されます。

症状は高熱、咳、くしゃみ、鼻水、目の充血などで、下痢、けいれん症状を示すものもあります。

予防には、ワクチンが効果的です。

●犬パルボウイルス感染症

パルボウイルスにより感染する病気で、突然嘔吐や血便を起こし、元気も食欲もまったくなくなります。子犬や体力のない犬では、脱水症状のため虚脱状態になり、1～2日のうちに死亡する例もみられます。

予防には、ワクチンが効果的です。

●犬伝染性肝炎

ジステンパーに似た伝染病で、特に子犬が感染すると1～2日のうちに死亡することがあります。はじめは、カゼのような症状ですが、のちに高熱が続き、嘔吐、下痢、黄疸へと進行します。

予防には、ワクチンが効果的です。

●犬糸状虫症（フィラリア症）

蚊に刺されることによって感染する、心臓の寄生虫病です。感染初期はほとんど無症状ですが、子虫が成長して心臓に定着すると、心臓や肺、肝臓が侵されます。運動をするとすぐ疲れ、咳をしたりします。ひどくなると痩せ細り、腹水がたまることもあります。

予防は、蚊の発生期間中、予防薬を内服させることが効果的です。

犬の習性を理解しよう

1. 飼い主に服従する

●可愛がってくれる飼い主に深い愛情を持ち、強いと思うものに服従します。



2. 警戒心

●警戒心が強く、自分の領域（テリトリー）を守ります。
★見知らぬ人や動物が領域に入ろうとすると攻撃します。（訪問先での咬傷など）

3. 動くものに興味

●動くものに興味を示します。
★急に駆け出したり、逃げたりすれば追いかけられます。
●穴を掘ります。
★オリの中から穴を掘って逃げ出すことがあります。



4. 嗅覚、聴覚が発達

●周囲の状況を素早く判断し、飼い主に知らせます。
★急に動いたり、大声を出すと、驚いて攻撃してくることがあります。

5. 群集性とナワバリ

●本能的習性で、リーダーを中心に、それぞれの群れの行動範囲（ナワバリ）があります。
★集団化すると、気が強くなります。

犬の家族計画

●めす

めす犬は、1年に1～2回程度発情します。普通1回に5～10匹の子犬を生むため、発情ごとに妊娠していたら、大変な数に増えてしまいます。また、母親の負担も大きく、長生きできません。

不妊手術は、1回の手間ですみ、確実です。また、おす犬が集まってくることもなくなります。

●おす

おす犬は、近くに発情中のめす犬がいると、そばに行きたくて一晩中遠吠えしたり、綱を引きちぎって逃走したりします。犬が人に咬みつく事故は、この発情の時期に多発しているようです。

生後1～2年のうちに、去勢手術をすることで防ぐことができます。

